

令和2年10月

第4回大野市小中学校再編計画検討委員会
会議録

日 時：令和2年10月1日（木）午後7時00分～午後9時01分

場 所：結とぴあ 3階 305・306号室

第4回大野市小中学校再編計画検討委員会 次第

と き 令和2年10月1日

午後7時より

ところ 結とびあ

1 開会

2 開会あいさつ

3 議事

(1) 小学校の再編について

(2) その他

4 その他

5 閉会あいさつ

< 出席者 >

委員長	松	木	健	一
副委員長	遠	藤	洋	子
委員	中	村	昌	嗣
委員	松	田	寿	子
委員	朝	日	智	幸
委員	金	井	和	信
委員	山	川	龍	一
委員	常	見	悦	郎
委員	宮	澤	則	博
委員	丸	山	力	哉
委員	上	田	智	亮
委員	山	本	恭	子
委員	伊	藤	恵利	奈
委員	斉	藤	雄	次

事務局（説明者）

事務局長	清	水	啓	司
教育総務課長	横	田	晃	弘
学校教育審議監	千	田		佐
教育総務課課長補佐	松	下	裕	子
教育総務課課長補佐	小	林	勝	信
教育総務課主事	堀		利	考

（書記）

< 欠席 >

委員	細	道	常	貴
----	---	---	---	---

< 傍聴者 >

16人

【開会】

【事務局】 本日は16名の傍聴を許可したので報告する。それでは第4回大野市小中学校再編計画検討委員会を開会する。

——<大野市教育理念の唱和>——

【開会あいさつ】

【委員長】 この会議も中学校を終了して、今日からは小学校の話ということでちょうど半ばを過ぎた。今日も委員の皆さんの熱心な意見をお願いしたい。

【議事】

【委員長】 (1) 小学校の再編について、事務局の説明をお願いする。

——<事務局説明>——

【委員長】 前回、資料を事前に配布し目を通しておくことが出来るので、論議を深めるために説明を短くした方がいいという意見があったので簡単に説明をさせていただいた。10月になり新聞報道等でご存知かもしれないが、この10年ぐらいの間で、文科省としては学級の人数を30人学級にしていく。今後はその変更を含めた話が出てくる可能性があると思う。学級の数が増える方向に修正になると思う。今回の資料について、ご意見、ご質問等があればお願いする。

【委員】 資料 No.2 の7ページ目の資料について、既設の小学校で新しい学校があるので、利用できるものは利用した方がいいと思っている。有終西小学校の空き教室はどの程度あるのか。

【事務局】 有終西小学校が建設された時には、1学年2学級編成で教室が整備された。現在は、1学年1学級、特別支援学級が2学級ある。

【委員】 現状の学校をそのまま使うわけにはいかないと思うが、将来的には当初の計画通り、2026年（令和8年）に小学校2校にした方がいいと思っている。今使える校舎を有効的に使うという話になれば、先行再編の話が出てくる。富田小学校と阪谷小学校、和泉小学校を再編する場合、現在の富田小学校はキャパがあると思う。先行再編をすることになればキャパは現状の学校で対応できるので、できるところから再編した方がいいと思う。

【委員長】 空き教室等を今の段階から有効活用していくという意見であった。

【委員】 何名から複式学級になるという基準はあるのか。中学校の会議の際に、学校の耐震化は完了していて、コンクリートの耐用年数が足りないから新築するという話があったが、長寿命化する場合、どのようにやるのかを教えていた

だきたい。

【委員長】複式学級の基準と、長寿命化の中身の2点について説明をお願いします。

【事務局】1点目の複式学級の基準について、2学年合わせて16人以下だと複式学級になる。ただし、1年生を含む学級、1年生と2年生を組み合わせた学級については8人以下になると複式学級になる。

【事務局】長寿命化については躯体を残してそれ以外の部分を更新する。一般的には、新築する費用の7割程度の費用がかかると言われている。

【委員】鉄骨部分を残してコンクリートを新しくするのであれば、鉄骨鉄筋コンクリート造なら出来ると思うが、骨組みがない鉄筋コンクリート造の場合は長寿命化できるのか。

【事務局】鉄筋コンクリート造でも長寿命化はできる。

【委員】鉄筋コンクリート造でも長寿命化はできる。鉄骨で筋交いを入れる、炭素繊維を張るなどいろいろな方法がある。

【委員】小学校が統合された場合、児童館の運営はどうなるのか。小学校の児童数が多くなれば、今までの児童館では受入れ人数も足りなくなるのではないか。

【委員長】学校を統合した場合、児童館の収容人数も増やさないといけないが、それについて検討したものがあるのか。

【事務局】複式学級を解消するという教育委員会の方針の中で、複式学級を所有する小学校については、放課後子ども教室を実施している。地域の活性化や地域の子どもたちは地域で育てるという観点から考えても、放課後子ども教室を残していくと考えている。そのような部分で児童館の人数の解消は考えられると思う。

【委員】放課後子ども教室は学校内で行っているのか。

【事務局】以前は学校内でやっていたが、現在、放課後子ども教室は公民館が主体となってやっている。公民館を活用した放課後子ども教室が将来的に位置づいていくと考える。

【委員長】学校を統合した場合にも、放課後子ども教室については現行の公民館の利用を継続していくことも含めて考えているとのことだった。

【委員】土地取得経費用について、有終西小学校を例とした場合、土地の費用はいくらかかるのか。

【事務局】有終西小学校の場合、宅地として敷地を購入する場合4億5千万円ほど費用がかかる。田として購入した場合は5百万円ほど費用がかかる計算となる。ただし、固定資産税の評価額で試算しているので、実際に購入する場合にはもう少し高額になる。田として購入した場合にはさらに宅地の造成費がかかる。

【委員】学校を建てる際に国の補助金が出ると思うが、土地の取得費用についても国の補助金が出るのか。

【事務局】土地の取得費用については国庫補助の対象外となる。

【委員】 前回、他の委員から和泉地区の人は学校がいらないと考えていると思うとの意見が出た。過去のアンケート結果を見ると、和泉地区に学校が欲しいとの意見もあった。和泉地区に学校がいらないというのは和泉地区の総意なのか、委員の個人の思いなのか。

【委員】 前回の会議の後、区長連合会で中学校を1校に決めたと誤った情報が流れた。区長連合会では学校の協議はしていない。和泉地区の人の話を聞くと、中部縦貫自動車道が開通すると過疎になり人もいなくなると聞く。区長連合会で和泉地区の区長会長と話しをしても、学校を残しても維持管理ができないとの意見だった。

【委員長】 機関決定したわけではなく、委員の思いとして述べられたということによろしいか。

【委員】 はい。

【委員】 市PTA連合会で、会長が集まった時に学校再編の意見をいただいたが、意見があるのは村部の学校の会長だった。和泉のPTA会長は、中学生であれば中学校が合併して、朝早く起きて電車で大野市に来るのは耐えられるかもしれない。ただ、小学校1年生が朝早くから学校へ通うのは耐えられないと言っていた。中部縦貫自動車道ができて過疎が進むのではなくて、そのような環境にしてしまうと過疎が進み、悪循環になるのではないかと思う。

【委員】 小学校の基本は複式の解消と通学時間・通学距離を考えないといけないと思う。資料 No. 1 (2) 小学校児童数の将来推計を見て、令和8年度の児童数で考えると、小学校の数は盆地の中に4校。中学校の位置で考えてもらえるといいと思う。阪谷と富田を2校合わせて142名、富田小学校の校舎が地元の木材を使っていて素晴らしい。ランチルームがとてもいい部屋で、大野の小学校・中学校の特徴はその学校で給食を作って、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく出すというのがいいところ。142名だと自校でご飯を炊くと思うので、富田小学校の校舎を使わない手はないと思う。上庄小学校は令和8年度で118名なので複式にはならないと思う。上庄校区は広いので、他の学校と一緒にすると通学が大変だと思う。有終3校と小山と下庄を2校にすると良いと思う。人口が偏在しているので、学年2クラス以上でクラスができるといいが、通学距離を考えると中々そうはいかないと思う。しかし、複式は解消すべきだと思う。和泉地区については、前回、義務教育学校はどうかと言ったが、中学生の部活動や勉強においての意見交換等を考えると、中学生は盆地に来ても体力的に耐えられると思うが、小学生には無理だと思う。和泉地区には小学校を残した方がいいと思う。和泉の資源を使って特色ある学校を作ってはどうかと考える。新聞で敦賀の東浦小中学校が特認校として報道されていた。校区の縛りが緩い学校にして、和泉の特色ある魅力的な教育課程にして、広い範囲から来れるようにしてはどうかと思う。盆地の4校の校区を決めるときには、どこに通っても遠いという地域が出てくるので、選択できる地域があってもいい

いのかと思う。

【委員長】和泉についての意見と、盆地4校化についての意見だった。

【委員】再編の基準がないから、様々な意見が出て揉めるのだと思う。教育委員会の方針のように複式学級の解消を第一の目的とし、複式学級になったら合併するという基準を設ければいいと思う。複式学級の基準があれば、村部も何人以下になれば合併ということが分かれば、そうならないように地域も頑張る必要が出てくると思う。子どもの為の再編と言っているが、大規模校、小規模校それぞれのメリットがあると思う。自分の子どもは1学級しかないが、毎日先生が連絡帳に一文書いていただけて、子どもたちの学校での生活状況や態度が見えてくる。大きい学校となった際に、そういう風に先生がしてくれるのか、できるのかというところもある。複式学級になったら合併するという基準を設けると何年後に合併か計算できるし、混乱なく合併できるのではないかと思う。

【委員長】今日で小学校のことについて結論を出すというわけではないので、様々な意見を出していただきたい。今の意見は、複式学級は解消した方がいいということ。そのような基準を作れば後の話しもし易くなる。地域も努力の仕方があるのではないかとの意見だった。

【委員】前回、委員長から一次再編、二次再編というような言葉があり、今も先行再編という言葉が出てきた。私は10年先、10数年先に市民に約束をしてという言い方をしたが、今回の再編で完結させようと思うと難しい面がたくさんあると思う。まずは複式の解消を目指すことをスタートに議論を継続させていく必要があると思う。事務局から複式学級になる場合の児童の基準は示されたが、教員の基準もある。各学年1クラスの場合は、校長や教頭、養護教諭、事務職員を除き、担任6人＋無担任の教員1人、計7人いる。それが複式学級が1クラス出た場合、教員の数は2人減って5人になる。5学級に対して5人の教員なので担任しかいなくなる。小さい学校は目が行き届くと言うが、何人で目を行き届かせているかという話になる。1人出張したら、教頭や養護教諭が対応しないといけなくなる。複式の解消と言っても、複式教育を否定している訳ではないし、大野市の複式の学校が良い教育をしているのはよく分かっているが、複式の解消はしていかなければいけないと考えている。しかし、地域生活や通学を考えると、和泉は別に考えないといけないと思う。

【委員長】複式の考え方について、子どもの数だけではなく教員の数についても複式になると急激に数が減る。そのことも含めて考えていきたいとの意見だった。

【委員】和泉地区は環境が良いが、大雪になると雪が2m～3m積もる。建設業者も数が少なくなり、大雪が降った場合に生活が難しくなる。高速道路ができると、降雪時にすぐ通行止めになり国道158号線にスノータイヤを装着していない車が下りてきて、国道も通行止めになる。諸々の生活を考えると無理かなと思う。公民館主体にという話が出たが、大野市では公民館を地域コミュニ

ティーセンターのようなものに作り替えようと意見が出ている。11月に区長連合会で雲南市に研修に行く。研修を担当している京都大学の先生も10年後、大野市では様々なところで人手が不足すると言っている。もう少し真剣に議論をしていただけたらと思う。

【委員長】和泉は存続が難しい。公民館で放課後子ども教室を実施するとなった場合、今後の公民館の役割を考えると難しいとの意見だった。

【委員】様々な要望や希望を聞いてもしょうがないと思う。将来に向けて、10年もすると人がいなくなるという状況が間近にあるので、前回の計画が悪かったから計画を変更するという議論ではなくて、計画通りに進めないといけない状況にきている。2023年（令和5年）、2026年（令和8年）に計画通りにするには時間があるので、その間を埋めるためにどうしたらいいのかという議論をしないといけないと思う。行政の計画性が無視されてしまうので、到達点を決めて話をしないといけないと思う。

【委員長】少子化については止まることは無いだろう。2023年（令和5年）、2026年（令和8年）を待つのではなく、早めに対応を考えた方がいいとの意見だった。

【委員】少子化がどんどん進み、少子化に対する観点だけの計画の話だけだったと思うが、コロナ禍で子ども一人一人の感染対策が求められ、学校一クラスあたりの人数が減っていく。学校が変化していくことも踏まえて、再編について議論しないと、少子化だから学校をまとめないといけないということではないと思う。多岐にわたる視点をもっていかないといけないと思う。大野市でもタブレット一人一台に45,000円の予算が付いたと思うが、何が変わるかを考えた方はいますか。将来のことを考えないと、少子化という一つの観点だけで考えると失敗すると思う。学校が変わる、教育指導も変わる。タブレットが整備されると机も変わるかも知れない。モノや時代が変わっていくということも考えていかないといけない。一つの観点だけで学校を再編していくのは違うと思う。

【委員長】少子化だけではなく、学校や教育がどう変わっていくかということも含めて論議してはどうかとの意見だった。

【委員】考え方がいろいろあるのは分かるが、小さい学校にして1対1で勉強できるのであればそれは大変いい話。9年間義務教育を1対1のできるのであれば、ITの必要もないしよっぽどいい。しかし、現実的ではない。共同生活が勉強の中にあって、田畑を耕す、土を耕すという共同生活をいかにみんなでやるか、また、スポーツを一緒にどうやってやるかを教育の一環として考えなければいけないと思う。

【委員長】少子化だけでなく、子どもたちが共同していくことを考えたときに、一定の規模が必要という意見を付け加えていただいた。

【委員】適正な規模の「適正」を決めないといけないと思う。世代が変われば考

えも変わり、求めるものも違ってくる。まず「適正」を決めないといけないと思う。

【委員長】「適正」をまず決めないと話しが進んでいかないという意見だった。

「適正」というのは難しいところで、ベターな状態ということについては了解してもらえが、これが「適正」だということはなかなか決められないと思う。論議する中では、これがベターではないかということは決めていけると思う。

【委員】参考資料1に学校規模によるメリットとデメリットとあるが、小浜市は再編を実施しているのか。再編しているのであれば小浜市では適正規模の議論があったのか。

【事務局】昨年度、小浜市では4小学校を統合して1小学校としている。統合に向けて議論を進めるために、小浜市ではメリットとデメリットについて平成21年度に整理されている。

【委員】校区があり住む場所で学校が決まると思うが、校区をこれから変更できるのか。一つの考えとして、子どもたちが自分の行きたい学校を選べるというのかなと思う。様々な意見が出る中で、この会議で結論を出さなければいけないとなると、何校にするという基があれば、それに向かってオプションを付けたりなど考えやすいのかなと思う。

【委員長】学校選択制について事務局で検討していただける案はあるのか。

【事務局】大野市教育委員会としては、校区が長い歴史の中で定められてきて、地区住民の思いもあるので簡単な変更は難しいと考えている。統合すれば校区は変わってくるが、選択制にすることによるデメリットも出てくると思う。公立学校は私立学校と違う。選択制による競争、学校の質の向上も考えられるが、公平性を考えると校区を定めて、小学校はふるさと教育を進めて、地域で育てるためには選択制でない方がいいと考えている。

【委員長】学校数を決めてしまった方が、話しが進みやすいという意見だった。教育委員会として、学校選択制については小学校に関してはあまり考えていない。地域性を重視していきたいとの考えだった。

【委員】小学校の給食について、大野市の子どもたちが毎日学校へ楽しみにしていけるように美味しいふるさと給食を推進していきたいと思っている。今、コロナの関係で、子どもたちが一人一人席を離して、前を向いて一人で黙々と給食を食べている現状だと思う。一人ずつ自立式のパーテーションを設置して、向かい合って給食を食べる。保護者にアンケートを取り、月に1、2回だけでも給食費を値上げして、美味しいふるさと給食を食べさせるなど、学校再編ではなくても今できることを少しずつ実行して、子どもたちも保護者も幸せだと思ってもらえることを始めていけたらいいと思う。

【委員長】直接再編に関するのではなく、今やれることを給食も含めて学校の中でやっていくべきではないかとの意見だった。

今日、いろんな意見が出ていると思う。1点目は和泉地区の問題をどうとら

えるのか。統合した方がいいのではないかという意見と、特認校のようなことも含めて、いろんな特色を考えていくという手もあるのではないか。特に小学生については通学が難しいのではないかという両方の意見があった。複式については解消した方がいいのではないか。特に子どもの数のこと、教員の数のことも含めて、複式学級の在り方が一つの基準としてみていった方がいいのではないかとの意見も出ていたと思う。議論を進めるにあたって、2023年（令和5年）、2026年（令和8年）を待つのではなく、減少していくことがはっきりとしているので、それに向けてもっと早めに進めていくことを考えた方がよいという意見や、学校を決めるときに学校の人数だけではなく、これからの教育の在り方も含めて検討すべきではないかとの意見があった。協働していくことが学校や子どもたちにとってはすごく重要なので、子どもの人数がいずれ問題になるといった意見もあった。全体を見ながら他にもこんな風に考えていくべきではないかとの意見があったら出していただきたい。

【委員】児童館も耐震はあるのか。小学校を新しく建てる際に児童館を併設するといった考えもあるのか。

【委員長】学校の再編を考えていく時に、児童館等のことについてどのように考えているのか改めて質問があった。補足説明があれば願います。

【事務局】児童館は放課後児童クラブを実施しているもので、旧大野町と下庄地区に設置している。所管は福祉こども課になるので、はっきりしとことは回答できない。

【委員】先ほど長寿命化について質問があったが、長寿命化については反対ではない。あるものを大事にするという考えは反対ではない。小学校は数が多いので、1校、2校というのは難しいと思う。徐々に再編していくという考えが良いと思う。

【委員長】学校を再編する場合であっても、新築するより今ある建物を有効活用して長寿命化させていく方がいいとの意見だった。

【委員】参考資料1 学校規模によるメリットとデメリットの資料について、人間は青が是、赤は非をイメージすることが多いので、大規模学校を青で、小規模学校を赤で書かれると、赤が悪いというイメージを受けるので、この書き方は良くないと思う。メリット、デメリットが書いてあるが小規模学校のデメリットについて、自分自身の経験から言うと、人数が多くても少なくとも仲のいい友達は出来るし、ある程度の固定化はされる。これに関してはデメリットではないと思う。切磋琢磨に乏しくという点も、仲のいい友達ほど逆に負けたくないという気持ちが生まれるのではないかと思う。先行再編をしていくという考え方については、急激な変化より緩やかな変化の方が受け入れてくれると思う。事務局の資料は、全ての学校を新築、長寿命化するという極端な資料になっている。再編の提案に付随する資料がないのでどうかと思う。複式学級となると教員の数が減るということは今日初めて聞いて、大きな問題だと思った。教員

が減って学校が大変になるとなれば、複式学級となる学校にしっかりと説明をしてあげるべきだと思う。

【委員長】資料の作り方や提案の仕方等についての意見だった。後半は、複式学級の在り方について、教員の数が減ることについて考えていく必要があるとの意見だった。

【委員】今日の会議の雰囲気から、複式学級についてはほとんど合意を得られたのかと感じている。児童生徒のことは委員の中でも教員しか知らないことで先ほども申し上げたが、もう一つ問題がある。事務局から説明があったが、1・2年生のセットは8人を超えると複式ではなくなる。それが次の年になると、9人だったら複式になる。2・3年生の複式になると、2年生は生活科があって理科・社会がない。3年生はその逆になる。それを同じ教室で一人の教員が見るのが基本になる。それを大野市が予算を付けて、非常勤講師を配置して別々に授業をできるようにしている。非常勤講師は非正規職員なので、継続して同じ学校に勤務することは難しいという現状もある。

先ほど大野盆地の中の話が出たが、資料 No.1 (2) を見ると、大野地区、下庄地区で最も児童数が少なくなっているのは有終西小学校。有終西小学校(学びの里「めいりん」)は新しい施設だが、学校組織を解体するという議論をしないといけないと思う。めいりんは社会教育施設として残した上で、学校としては近い将来に限界が来ると腹をくくらなければいけないと思う。学校再編を議論する我々委員が頭に置かないといけないことではないかと思う。

【委員長】複式学級については意見がまとまってきているのではないかという意見だった。有終西小学校のことは問題になっていなかったが、ドーナツ化現象が起きてきていて、有終西小学校の在り方も含めて考えなければいけないのではないかとの意見だった。

【委員】有終西小学校は非常に使いにくい建物だと思う。社会教育施設として使うとなると、そこで文化会館とのせめぎあいが生ずる。行政として考えていく時に文化会館と公民館的な社会教育施設と一緒にするのはいかがかという思いもある。

【委員長】今日結論を出すわけではないが、複式学級について補足する意見があればお願いします。

【副委員長】一委員として意見を述べる。大野市の中で有終南小学校や下庄小学校という大規模校や、統合した蕨生小学校、今、複式学級がある小山小学校で勤務してきた。大規模校や小規模校のメリット、デメリットを教員として、また子どもたちの姿から感じる事ができた。そのような中で、議論されているように、複式学級は子どもの力がついて、一人一人自らの学びが伸びる部分では大きいものがある。一方、そこまでに育てるための教員の負担はとても大きいものがある。熱心な教員がいて、子どもたちの一人一人を伸ばすという覚悟でやっていたら子どもたちは伸びていく。そうでないと複式学級は一人の教員

が2つの学年を持つことになり、どれだけ力量がある教員でも、その半分の時間は子どもたちは自分たちだけで学ぶことになる。それが1年、2年、6年と続くと、子どもの教育を平等に考えたときに問題かなと思うところはある。先ほどから出ているように、まずはそのことも含めて、複式学級という状況になったら統合を考えていただきたいとはやくから校区の方や市民の方に伝えていくなど、大野の一つの基準を決めて進んでいくと良いのではないかと思う。また、先行再編という形で徐々に統合していく、使える校舎は使ってなど少しずつ考えていって、中学校の時にも意見があったが、市民の方々のいろんな思いを受けての会議なので、今回の検討委員会の思いとしての結論を出し、10年後の子どものためには、また再度検討すると約束をして、次に進むといった形が良いのではないかと思う。校数もまずは小学校2校、中学校1校ではなくもう少し穏やかな進み方が良いのではないかと思う。

【委員長】複式学級の方向性について補足があれば意見をお願いしたい。和泉地区も複式学級だが、別問題にするのか一緒に複式の中で考えていくのかは一つの論点かと思う。

【委員】富田地区で森目小学校と蕨生小学校を統合してきたが、地区の人、保護者には、自分たちのエゴで地域のことだけ考えるのではなく、子どもたちのことを考えたら、統合すべきだと申し上げてきた。和泉の問題についても、今いる児童やその保護者が、今の間は自分たちでやっていくというのであればそれはそれでいいと思う。教育として今のままではだめだと思ったときに統合すればいいと思う。

自分自身は、1クラス40人でいいと思っている。担任の先生が35人であろうと30人であろうと1人で面倒を見るとなると大変なリスクがあって、ストレスがたまると思う。自分が高校生の時には担任と副担任がいた。40人1クラスでも先生が2人つけばいいとコロナ禍になるまでは思っていた。

市の中心部には児童館があるが村部には児童館がなく、地区の公民館で子どもを見ている。公民館は児童を見るところではなく、地区全体の自治を見るところだと思う。将来的には公民館を自治センターにしていこうとの話が出ている中で、教育委員会として学校再編と同時に児童館のことも含めて話しをしていくべきではないかと思う。

【委員長】児童館、放課後子ども教室をどうしていくのかという問題は、女性がしっかりと働いていくために、学校規模と同じ規模の放課後児童クラブ等を用意していかないといけない話になるかも知れない。それを公民館が代替していくことがいいのかなど、学校再編を進めていく時に、問題をどう整理していくかについては議論の余地があると思う。

今回の会議について、今まで中学校と小学校を分けて論議をしてきたが、今後それ以外のことも含めて論議の対象にして議論を深めていきたいと思う。その後、今まで出てきたことについて論点を整理して絞り込んでいきたいと考え

ている。

【委員】参考資料の1学校規模によるメリットとデメリットの資料について、大規模学校のメリットは子どもに対してというより、学校運営面に対しての方が大きい感じを受ける。教育効果面の「多種多様な興味や関心に応えられ、個性の伸長を図ることができる」とあるが、今のインターネット社会で子どもたちは様々な情報を簡単に手に入れることができるので、大規模学校ではなくてもいいのではないかと思う。学校運営面のメリットは、大きく見れば子どもたちにとっていいことなのかも知れないが、それよりも小規模学校のメリットの方が子どもたちにとっては大事なのではないかと思う。急激な合併をするより、複式学級になったら合併するというのを周知し、複式学級にならないよう地域で努力してもらうことがいいのではないかと思う。大規模学校のデメリットを見ると腑に落ちないし、合併の際には子どもたちをメインに考えなければいけないと思う。様々な意見を聞いていると、大きく考えれば子どもたちのことになると思うが、話がずれていっているようなところもある。第一に子どもたちが生活しやすく、学校に行きたいと思えるような合併をしてほしい。合併に限らず今の小学校で、子どもたちが学びやすく行きたくなるような学校にしてほしいと思う。

【委員】少子化だけでなく、大野市全体の人口が減っている。人が減ると税収も減り、今までと同じだけの学校規模を維持していく財政余力もなくなるのではないかと思う。現状の校舎の寿命が来ているので、このままではお金がかかる。理想的には各地域に学校があることだが、将来的に建て替えないと子どもに危険が生じるのであれば、近い間にその地区で建て替えるのか、統合して建て替えるのかを考えたときに、財政的な面も考える必要があると思う。子どもの機会均等な学び舎を考えたときに、多くの子どもや先生がいて、様々なことを学べる環境が良いと思う。インターネットでいろいろなことを調べることができるが、専門の先生に現場で教えてもらえることは全く別物だと考える。

【委員】学校を建て直さなければいけないことは、以前から分かっていたことであって、最近分かったことではないと思う。それをせずに大野市は様々な建物を建てたり、お金を使ったりしている。今更子どもの教育のことで、税収のことや財政的な話しをするのは、子どもたちのことを第一に考えていないのではないかと思う。学校再編には関係ないかも知れないが、行政で考えて税金を使っていたらいいと思う。未来ある子どもたちのために投資していただきたいと思う。

【委員】委員の中には和泉地区の保護者がいない。同じ大野市でも和泉は特別だと思うので、和泉小中学校や就学前の保護者の意見をこの場で聞くことはできないか。

【事務局】各委員が推薦団体から次回の会議に向けて意見を吸い上げ、併わせて意見をいただきたい。

【委員長】和泉地区に関しては、各団体の代表である委員がそれぞれの立場から意見を聴取し、紹介してほしいとの事務局提案だがよろしいか。

——<委員了承>——

【委員長】次回以降、和泉地区のことについては別で時間を取りたいと思う。意見が出てきた、学校再編を急がなければいけないのではないかということ、ゆっくり考えればいいのではないかということについては調整できると思う。校舎の耐用年数や児童数の推移を合わせて検討していけると考えている。複式学級に関しては、小学校の問題から離れると出てこなくなるかも知れないが、複式は解消したいと多くの委員が考えていると思う。

児童館や放課後子ども教室についても、委員が各団体から意見を吸い上げていただけるとありがたい。

どのような意見が出てきたかを次回までにまとめて出していきたいと思う。それらを含めて論点の整理をしていきたいと思う。

【委員】各団体での意見の吸い上げは和泉地区に関してだけなのか。複式についても意見を吸い上げるのか。

【委員長】複式についても検討していただければと思う。

議事については、以上とする。

【その他】

【事務局】次回の会議は10月22日（木）に開催する。

【委員】会議の開催時間について、日中の開催を検討していただけないか。

【事務局】10月22日（木）は19時から開催する。日中の開催については、委員にアンケートを取り判断させていただく。

【事務局】以上で本日の日程を終了する。

【閉会】

——<副委員長あいさつ>——

【副委員長】前回の中学校再編の話し合いを受けて、今回も各委員の責任感を持った意見を聞くことができ、充実した話し合いとなった。次回に向けての資料作成方法や、会議への意見吸い上げについても積極的な提案があり感謝する。次回も大野市の子どもたちのために、更にもう一歩前へ進める話し合いができるようお願いしたい。